

# English Wind

小学校全教職員及び  
中学校英語科担当教員配布

英語教育の



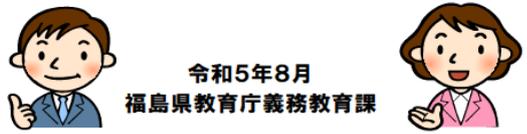
## 1 令和5年度全国学力・学習状況調査「英語」結果公表

過日、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。今回は英語が4年ぶりに実施されました。現在、各中学校では結果を基に分析をされているところではないでしょうか。全国学力・学習状況調査の目的の一つに、「学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実に充てる」ことが挙げられています。児童生徒の英語力の向上のために、本調査の結果を分析し、さらなる授業改善に生かしていきましょう。

## 令和5年度授業改善グランドデザイン

**令和5年度  
授業改善グランドデザイン**  
「学びの変革推進プラン」  
施策1の推進に向けて  
全国学力・学習状況調査の結果分析と学力向上の方策

- 1 全国学力・学習状況調査の結果の概要 P1
- 2 各質問紙の結果に見るふくしまの強みと課題 P3
- 3 各教科の分析及びふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業 P6
- 4 ふくしまの強みを生かし、課題の克服を目指して！ P11
- 5 各調査の特色に応じて～「ふくしま学力調査」との整理～ P13



◎すべてのデータを、福島県教育庁義務教育課WEBサイトからPDFでダウンロードいただけます。  
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a>  
 または **福島県教育庁義務教育課** 検索

### 中学校英語

#### 領域・観点・問題形式別の状況

※ レーダーチャートでは、全国の平均正答率を100とした場合の県の平均正答率の割合を示している。

#### 課題が見られた設問

2 「忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する」  
 8(2) 「ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」  
 9(1)② 「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる」

#### ふくしまの「授業スタンダード」を活用した授業改善のポイント

◎【英語9】文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書く

設問9(1)②は、語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる問題です。

② <友達同士の会話>

A: Oh, you have a new watch!  
 B: Yes, I got it yesterday.  
 A: ( buy ) the watch?  
 B: At a department store near the station.

《誤答分析から》  
 Where do you buyやwhere boughtなど、一般動詞の二人称単数過去形 (did) を用いず解答した生徒は34.6%でした。会話の流れから疑問詞whereを用いて書くことは理解しているが、時制を正しく判断することができていない、もしくは基本的な語や文法事項等を理解して一般動詞の疑問文を書くことに課題があると考えられます。

《授業スタンダードより》  
 ① 多様な言語活動による「主体的・対話的で深い学び」  
 ◎ ねらいを達成するために、次のようなことに留意して言語活動を設定します。  
 ・ 授業のどの段階にも授業付ける。  
 ・ どのような言語活動にするか。(記録、要約、説明、議論など)  
 ◎ 言語活動は、思考力・判断力・表現力等を高め、言語能力を育みます。

② 「ペアやグループでの話し合い」で広がる思考  
 ◎ 目的を明確にしたペアやグループの話し合いでは、次のようなことが期待できます。  
 ・ 考えを伝えることによる思考の整理  
 ・ 他者からの情報による新たな気づきや発想  
 ◎ 自分の考えを直ちに表現し、相手の考えを共感的に聞くことは、思考の広がりや深まりにつながります。

《授業改善のポイント》  
 ◎ 疑問文を英語のコミュニケーションにおいて正しく活用できるまでには時間がかかるため、継続的な取組が必要となります。教科書本文の内容理解に関するQA活動だけでなく、番学習の時間を活用して教師と生徒、または生徒同士でのQA活動を継続的に設定していきましょう。  
 ◎ 英語の正確性を高めるためには、話したことを書いて確認させることが重要です。さらに、書いたものを生徒同士で読み合わせることで、文法的な間違いに気付いたり、友達の表現から学んだりすることもできます。生徒の書く時間には個人差があるため、活動時間を適宜確保することが必要です。授業内で一定の時間を与え、残りは家庭学習の課題にするなど工夫していきましょう。

義務教育課では、令和5年度授業改善グランドデザインを作成し、現在HPにアップしています。各教科のページでは、福島県で課題が見られた設問を取り上げ、ふくしまの「授業スタンダード」を基にした授業改善のポイントを示しています。英語では、「書くこと」の領域を課題として取り上げました。ぜひ、ご覧いただき、2学期からの授業改善につなげてください。

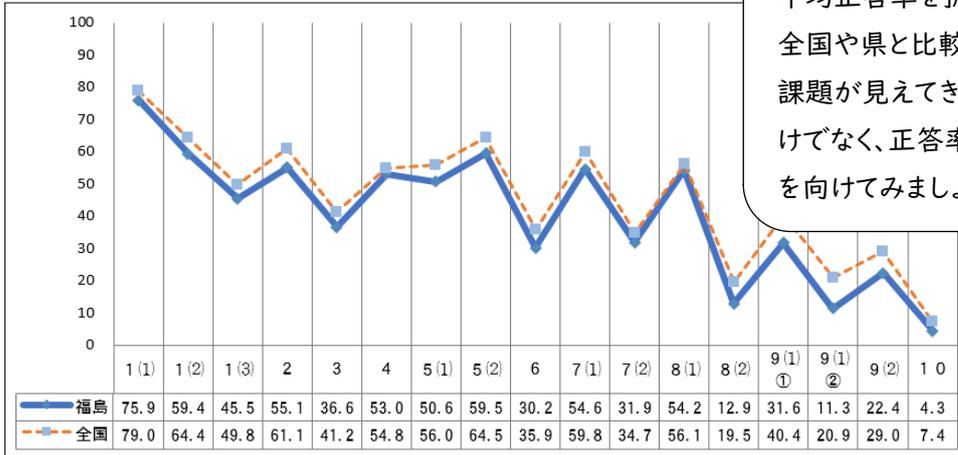
**「令和5年度授業改善グランドデザイン」はこちら**



## 2 結果分析について

前掲のグラウンドデザインでは、福島県と全国の平均正答率を比較し、課題を分析しました。しかし、これはあくまでも福島県として見られる傾向です。学校によって課題はそれぞれ違うはずであり、子どもたちの英語力向上のためには、各校における結果分析も必要です。分析にあたっては、担当学年の教員だけでなく、他教科においても同様に見られる課題等を洗い出し、学校全体で取り組める対応等を具体的に構築していくことも重要です。

### <全国や県の傾向と比較してみる>



平均正答率を折れ線グラフで表し、全国や県と比較すると、学校独自の課題が見えてきます。また、課題だけでなく、正答率が高い設問にも目を向けてみましょう。



### <誤答を分析する>

問題番号	問題の概要	解答率					無解答
		1	2	3	4	5	
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	14.8	13.6	30.2	41.2	0.1	0.3
		14.5	13.1	35.9	36.1	0.1	0.3

解答	概要
1	1 と解答しているもの
2	2 と解答しているもの
3	◎ 3 と解答しているもの
4	4 と解答しているもの
9.9	上記以外の解答
0	無解答

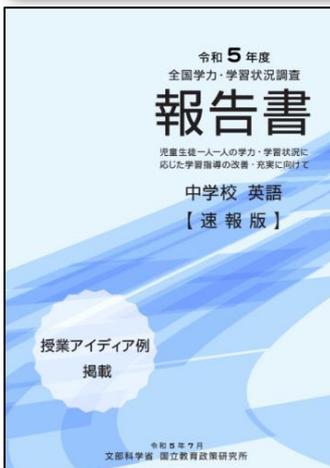
無解答率にも着目してみましょう。

解答類型から誤答を分析し、生徒がどんどこでつまづいているかを分析してみましょう。



## 3 授業改善に向けた資料について

今後の授業改善のために、国立教育政策研究所作成の「令和5年度全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 英語」も参考にしてみましょう。分析結果や授業アイデア例、指導に役立つコラムなどが掲載されています。



**授業アイデア例**

「言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けの力を育成するための学習過程」

1. コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を把握し、言語活動に取り組む
2. 分類や比較を通して表現の違いを理解する
3. 意味のある文脈の中で、言語の働きを理解し、表現を使い分ける
4. 学んだことを他の場面や状況で活用する

1. コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を把握し、言語活動に取り組む

**Schedule**  
Date: Friday, Oct 6  
Time: From 10:00 a.m.  
Place: Nagisa Hall

You → Your friends and teachers

This is the schedule of an English speech contest. You are going to make a speech there. I hope you ask your friends and your teachers to come. What will you say? Now, talk with your partner about how to ask them.

「友達や先生に対して、スピーチコンテストに来てもらえるように依頼する」という目的や場面、状況等を把握し、見通しをもって言語活動に取り組むことが大切です。

**コラム①**

【「知識及び技能」は「お茶と湯飲み」の関係】

おいしいお茶を出されると、心が癒されます。お茶がおいしく淹れられているかどうかを評価するには、必ず湯飲み（器）に入れて飲まなければならないからです。液体であるお茶を器に入れて飲むことができないからです。また湯飲みの方も、ひびが入ったり欠けたりしていないか、お茶（液体）を入れて確認する必要があります。お茶の評価には湯飲みが欠かせず、湯飲みの評価にはお茶が欠かせません。外国語科の「知識及び技能」の評価も、「お茶と湯飲み」と同じ関係にあります。

報告書はこちら